

【大和高原・都祁(つげ)の里】

「榛原駅」北口バス停① 奈良交通「23針インター行」乗車 バス10:12発～10:30着「南白石」下車
《コース》 三陵墓古墳群(東・西)～都祁水分(みくまり)神社(山辺(やまのべ)の御井(みい)) ㊦
～小治田(おはりだ)安萬侶の墓～来迎寺～国津神社～
「南之庄」バス停15:07発～15:30頃着「榛原駅」



榛原駅北側



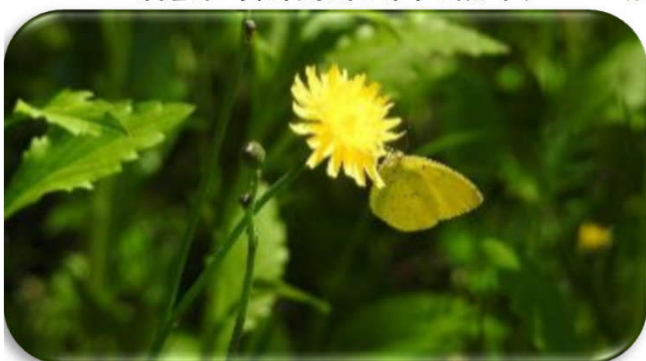
バス車内



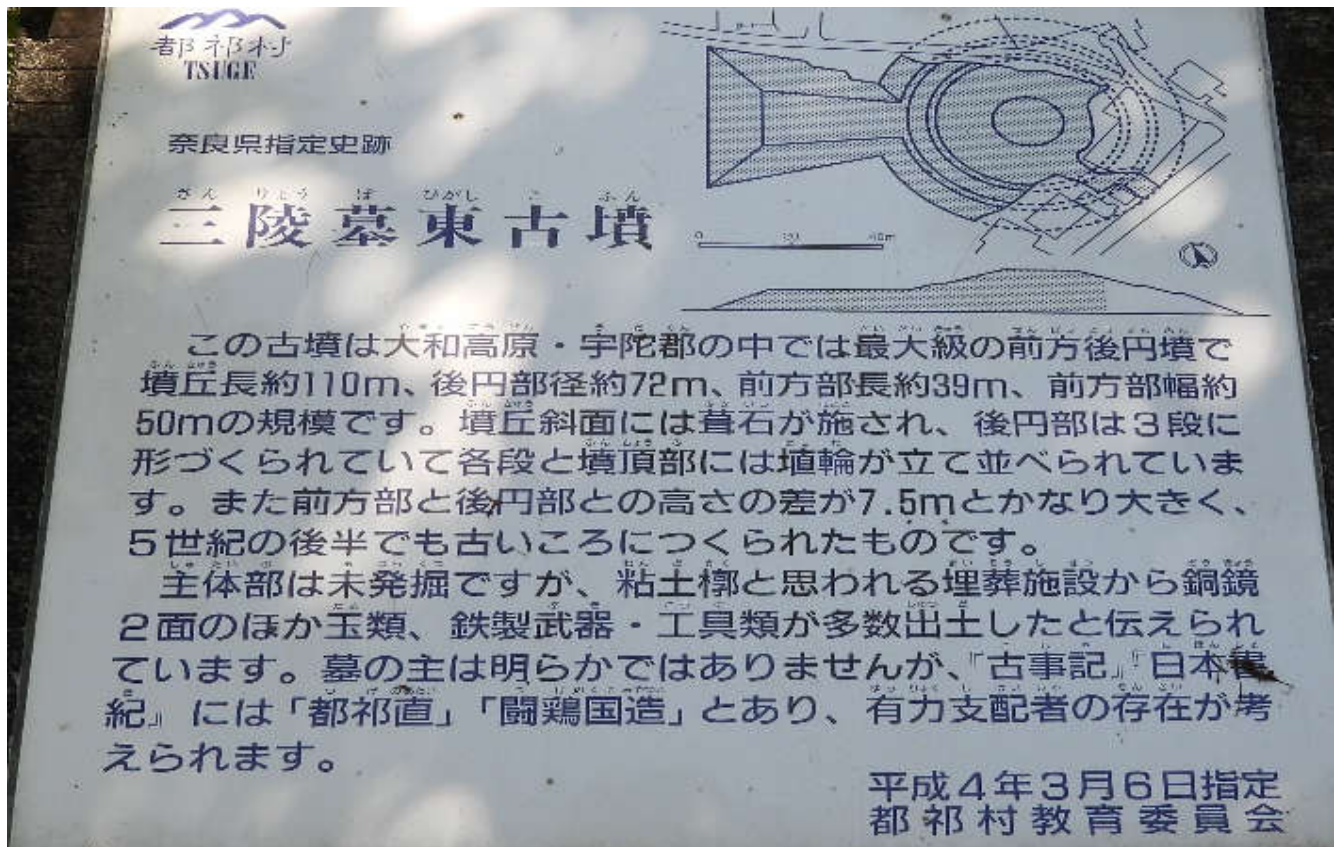
南白石下車三陵墓古墳群史跡公園へ向う



三陵墓古墳群史跡公園で点呼、コース説明とストレージ 案内担当者26期(池原さま)



三陵墓古墳群(さんりょうぼこふんぐん) 三陵墓西古墳、三陵墓東古墳の2墓が中心となる都介野岳から北にのびる尾根上に営まれた古墳群。三陵墓西古墳は直径40m、高さ5mの円墳で二つの主体部が確認されている。三陵墓東古墳は墳丘長110m、後円部径72m、前方部幅50mの前方後円墳で、大和高原・宇陀郡においては最大級の古墳。出土品から西古墳は5世紀前半、東古墳は5世紀後半の築造とされ、国造クラスの有力者が被葬されたのではないかと考えられている。



三陸墓東古墳



モニュメントと石像



三陸墓西古墳上から



三陸墓西古墳上から

都祁村 TSUGE 【三陸墓西古墳】

都介野岳から北に伸びる尾根上に造られたこの古墳は、直径約40m、高さ約5m、墳頂部の直径約16mの大型円墳です。1段築成で墳頂部と墳丘斜面には墓石が施され、墳頂部の外周には円筒埴輪と朝顔形埴輪から構成される埴輪列がめぐらされています。

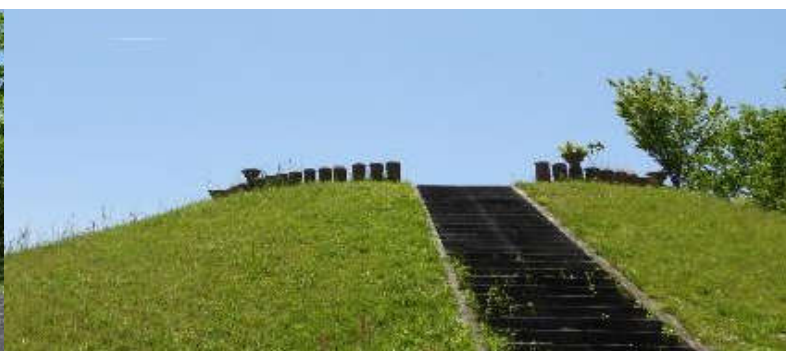
1951年に主体部の調査が行われていますが、1995年の調査によって、割竹形木棺粘土槨の第1主体部のほかに、組合式木棺直葬の第2主体部が新たに見つかりました。

第1主体部の割竹形木棺は長さ8.35m、南小口幅120cm、北小口幅95cmで、棺床には赤色顔料であるベンガラを散布しています。棺の広い南が頭位と考えられています。墳丘完成後、長さ13m、幅5.6mの隅丸長方形の墓域を約1.5m掘り下げています。

第2主体部の墓域は長さ5.5m、幅2mの隅丸長方形で、深さ約1.5mです。木棺は長さ4.17m、北小口幅61cm、南小口幅67cmで棺の広い南が頭位です。棺身の高さは26cm程で、内面は全面にベンガラが塗られています。

築造時期は、出土した円筒埴輪などから古墳時代中期(5世紀)前半と考えられ、中期中葉の第2主体部を挟んで、中期後半に入ると大和高原最大の前方後円墳である三陸墓東古墳築造という最も隆盛した時期を迎えることになります。

平成8年3月22日に東古墳、南古墳とあわせ、三陸墓古墳群として、奈良県史跡に指定されています。



三陸墓西古墳と石像



田園風景 柘植水分神社へ向う



白鷺



ケリ



こいのぼりと飛行機雲



柘植水分神社へ



柘植水分神社 大和国水分四社(都祁・宇陀・吉野・葛城)の1つ



都祁水分神社本殿(重要文化財、室町時代中期 明応八年 1499年、一間社春日造、桧皮葺)



山辺の御井へ向う



山辺(やまのべ)の御井(みい)



山邊乃(やまのべの) 御井乎見我互利(みみをみがてり) 神風
乃(かむかぜの) 伊勢處女等(いせをとめども) 相見鶴鴨(あひ
みつるかも) (訳) 山辺の御井(みい)、この御井を見に来て、はか
らずも、神風吹く伊勢のおよめたちに出逢うことができた。(伊藤
博著「万葉集 一」角川ソフィア文庫より)
(注) かむかぜの【神風の】: 枕詞。地名「伊勢」にかかる。「かみか
ぜの」とも。
平安時代後期以降は「かみかぜや」が一般的。題詞は、「和銅五年
壬子夏四月遣長田王于伊勢神宮時山邊御井作歌」とある。

都祁分水神社境内 山邊の御井脇の万葉歌碑(長田王)



小治田(おはりだ)安萬侶の墓

[小治田安萬侶]おはりだのやすまろ]墓

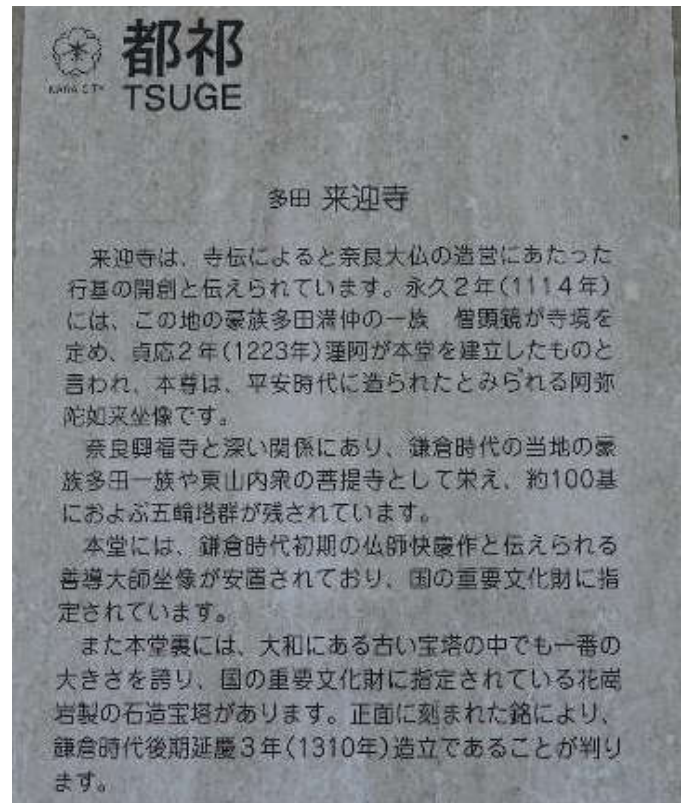
明治45年(1912年)に丘陵斜面から火葬骨が木櫃(もくひつ)に入れられた状態で発見され、墓誌は木櫃に伴う状態で出土しました。墓誌が3枚もある珍しい例です。銀製の和同開珎・土師器甕・三彩壺の破片なども出土しています。小治田氏は蘇我氏の同族で、明日香村豊浦周辺を拠点としていたようです。



べに花ツメ草



涅槃山蓮城院 来迎寺へ



来迎寺(らいこうじ)



藤原期の阿弥陀如来坐像をご本尊とし快慶作と伝えられる玉眼の善導大師坐像が本堂には安置されています。



本堂の裏手の鎌倉時代よりの五輪塔群の最大塔(鎌倉時代後期、花崗岩、高さ 240Cm)



国津神社へ向う



国津神社 (都祁南之庄)へ向う



国津神社 (都祁南之庄)へ向う



国津神社 (都祁南之庄町) 都祁(つげ)地方に数多く点在する国津神社の一社

社伝によると、天録三年(972)に伊賀国阿拝郡の国津大明神を河内国高安郡へ遷す途中に当地で一時滞在したと。その際に社殿背後の山に座す御神体の「白石」が動かなくなったので、当地に社殿をこしらえ創建に至ったとのこと。



拝殿前の狛犬 顔はぺちゃんこ、胸から腹まで寸胴で、とても面白くてユニークな狛犬



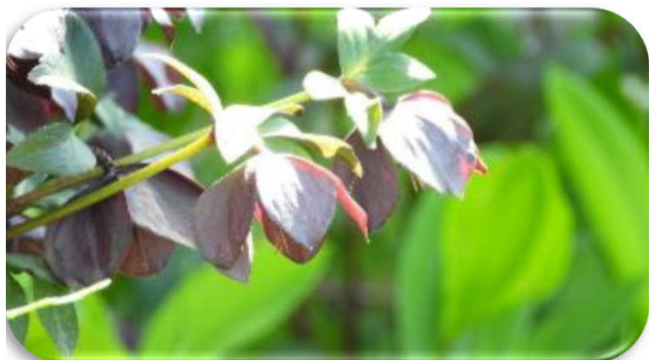
南之庄みなみのしょう集落西端に鎮座。祭神は大国魂(おおくにたま)命、九頭(くず)大明神とも称した



「南之庄」バス停へ向う



十二単 (ジュウニヒトエ) の花



クリスマスローズ



スズラン

南之庄公民館横でバスの時間待ち中、花壇の観察



帰りの車中



榛原駅で解散 お疲れ様でした